

採択理由

プログラム名： 国際共同研究の推進
課題名： 難治性寄生虫病に関する遺伝子診断法の開発
提案機関名： 旭川医科大学

コメント

テニア症、囊虫症は、国際的にも取組の遅れている「顧みられない熱帯病」の一つに数えられる感染症である。しかし、突然死も引き起こす人獣感染症であることから、アジア・アフリカ諸国において、近年その対策が、公衆衛生上大きな課題となっている。本提案は、長年にわたる研究実績に基づいて、現地での迅速な診断を可能とする免疫・遺伝子検査法を開発し、感染の広まりについて疫学研究の実施を図るものであり、その社会的意義とともに、継続的かつ着実な展開が期待できる点が評価される。

なお、本課題の実施に当たっては、海外共同機関の役割分担を明確にし、緊密な協力関係の更なる確立と発展を図っていくことが必要である。また、現地への成果の普及を念頭に、相手国における社会経済学的な側面にも十分留意して研究を推進し、成果の実効性を更に高めていくことが期待される。